２０２４年度事業計画

特定非営利活動法人くろとり山荘

ＮＰＯ法人くろとり山荘は発足以来４月に、デイサービスくろとり山荘は７月に開設１５周年を迎える。また、新デイサービス移転後１０年を経過した。この間、スタッフをはじめ、多くの会員、地域住民の方々、ボランティア、デイサービス利用者、家族の皆様に支えられ活動を行ってきた。これまでに正会員は８６名、賛助会員は２６９名の方に入会していただき、デイサービスは２５９名の方に利用していただいた。デイサービス経営は１０年あまり順調に推移してきたが、コロナ禍の３年余りは利用者が増えず厳しい経営状況も経験した。ようやくコロナも下火になり利用者数も回復傾向にあり経営も安定しつつある。この間、訪問看護ステーションも開設したが利用者数が見込み通り増えず、経営が厳しくなり閉鎖せざるを得ない状況にもなった。養護施設退所後の自立援助ホーム事業なども検討したが、人員等条件を満たすことができず新たな事業開始には至らなかった。この１５年間、スタッフの地道な努力によりケアマネージャにも信頼され、利用者を紹介していただける居宅介護支援事業所も増えた。利用者、家族の信頼関係も強まり、和泉市においても評価、信頼されるデイサービスとなっている。

　来年は団塊世代が７５歳以上となり、より一層少子高齢社会が進行する。こうした中、社会保障費の伸びは期待できず、介護保険制度も同様に厳しい状況である。今年４月の介護報酬改定は1.59％引き上げであったものの、そのうち介護職員処遇改善が＋0.98％を占め、その他の介護に関わる実質引き上げは0.61％とわずかなものであった。訪問介護の基本報酬は減額となっており、厳しい経営運営が強いられ、今年に入り訪問介護事業所は過去最高の倒産件数ペースとなっている。今後は３年毎に見直しされる介護報酬は引上げのほとんど期待できず、逆にマイナス改定が想定される状況である。これまで経営安定のため色々と努力を重ねているが、収入源が基本的に介護報酬のみであり、根本的に国の財政支出構造が見直されない限り厳しい経営が続くことが予想される。こうした状況は、現場で働く福祉労働者にも跳ね返り、低賃金、人員不足の悪循環を招いている。訪問介護職員の募集は３５倍を超え、これに象徴されるように福祉関連事業所では赤字経営ばかりでなく人員不足による倒産が増えている。くろとり山荘においても同様の傾向にあり、職員のモチベーションアップ、職員の定着、また物価高での生活補償などのため賃金アップも目指しているが、介護報酬により収入は限られている。職員を募集しても応募がほとんどない状況が続いており、年次有給休暇も取得しづらい状況が続いている。こうした悪循環の状況を少しでも打開していくため、研修補償や寮提供などの就労支援や外国人技能実習生、新卒者の受け入れも検討して職員確保に努めていきたい。こうしたことで、職員の生活、休暇が保障され、働きがいを持ち、働きやすい職場環境に少しでも近づけていきたい。そうしたことは、利用者への介護向上や経営向上にもつながっていくものである。そのためには、今後の厳しい介護・福祉動向を見極め短期、長期の経営戦略が求められ、情報収集、研究と共に会員の知恵、協力も必要とされている。

経営健全化に向けて、経営指標とされる月利用者３００人以上、月利用率８０％以上、月介護報酬４００万円以上を目標にかかげ経営努力を重ねていく。そのため、日常の業務でパーソンセンタードケアを心がけ、利用者、家族に向かい合い、楽しく笑顔あふれるデイをめざしていく。こうした日常の業務を通して利用者、家族、ケマネージャにくろとり山荘の良さが口コミで広がっていくようにしていきたい。こうした経営目標を実現するためにも、人員確保が必須である。様々な形での募集方法も検討していきたい。また、経営安定化のため、元の定員１８名に戻す検討も必要となるが、施設の狭隘化、定数人員確保が問題となってくる。

くろとり山荘は「住み慣れた街でごく当たり前の生活ができる」ことを目指し、どのような方でも受け入れていくことを基本理念としている。ケアマネさんからは「最後はくろとり山荘さん頼み」と言われるように他施設では受け入れがたいご利用者も受け入れている。また、利用していただいている利用者には楽しく過ごしていただき、家族にも利用してよかったと思っていただけるようなデイサービス作りを目指している。重度の利用者で家族の高い要望にも応えようとしていくため、スタッフの負担も重くなっており、このため人員も他事業所より多く必要とされる。こうしたことからも休暇が取り難い状況にもなっている。こうした中でも、利用者、家族の要望に応えていくため、アンケートの実施や「地域密着型通所介護運営推進会議」で利用者・家族、地域住民の方々の意見を伺い、より一層満足していただけるようなデイサービス運営をめざしていく。

これからも多様なボランティアに協力をいただき、利用者にもより一層楽しんでいただけるようなデイサービスをめざしていく。町会の「ふぁみりーカフェー」に利用者とできるだけ一緒に参加して地域・町会員の方とも交流も深めていきたい。また、昨年度同様、年2回、火災・災害訓練を町会の協力をもとに共同で行っていき、少しずつ災害対策のレベルアップをはかっていきたい。町会の催しや清掃活動にも積極的に参加し、バードオウォッチングなど一緒に活動できるものもこちらから提案し企画していきたい。できれば地域の方の役に立つような研修会などの啓発活動も検討していく。また、くろとり山荘発足１５周年を記念して、コロナ禍で中断していたイベントを企画し、町会やボランティアの協力も得ながら家族同士の交流なども行っていきたい。寄付していただいた竹林もできるだけ整備し、花を植えたり、畑などの活用も行い、道行く方々にも楽しんでいただければと考えている。

個別運営指導にも備え、利用者の介護記録などの文書整理にも普段から心掛けていく。今回の介護報酬改定で決定された加算条件が遵守できるように見直しを行うと同時に、人員配置、加算条件緩和については活用はかっていく。すでに作成・実施している災害・感染の業務継続計画や高齢者虐待防止措置だけでなく、やむを得ず拘束した場合の承諾書や時間、様子の記録もおこない、身体拘束等の適正化も行っていく。また、これまで認知症などの研修に加え、入浴介助の研修も必須となった。こうした内部研修と合わせて外部研修にも力を入れ、研修参加を補助し、職員の知識、技能をレベルアップし、利用者の心身のサポート向上に努めていく。ＬＩＦＥ（科学的介護推進体制）はこれまで６カ月から３カ月に1回のデータ提出になり事務処理の負担が増えることとなったが、フィードバックされた分析データを活用して利用者への介護向上の一助としていきたい。

事故防止対策は大事故につながらないように些細な事でも隠さないという姿勢を堅持し、積極的にヒアリハット、アクシデント報告を提出し、分析、改善を行い全員が共有していく。また、事故を防ぐため事故予知を心掛け、必要な場合は安全ベルトを家族の了解のもとに行うなど安全対策を強めていく。利用者からの要望、苦情は、利用者、家族、また地域の住民の方々から気軽に言っていただけるよう心掛け、できる得る限り要望に添えるよう改善していく。当デイサービスに多くおられる意思表示が困難な利用者にも向き合い、声なき声に少しでも傾聴し要望にも応え、楽しんでいただけるようにしていきたい。要望が強いお泊りデイサービスについても、人員が確保できれば条件整備を進めながら再開をめざしていきたい。新型コロナは昨年５月に感染症法５類移行したが、再流行も懸念される。基本的にこれまで通り手洗い、換気など基本的感染対策を続行し、万が一、再流行、クラスター発生した場合は、感染対策委員会をすみやかに開催し対応を行っていく。

会員は、最大年間４６名いた正会員は３８名に、１３６名いた賛助会員は８６名まで減少しており、さらに今年度は減少する可能性がある。こうした中、会員であることの誇りを持てるような魅力ある活動やメリットが求められている。ＮＰＯ法人くろとり山荘正会員、賛助会員の知恵、協力も得ながら魅力ある活動を行い、１００名以上の賛助会員が復活できるような活動をめざしていきたい。会報「山荘だより」は、楽しんで読んでいただけるような紙面の工夫などを行い、これまで通り年４回の発行を行い啓発活動も行っていく。新たに、利用者、家族向けにデイサービスでの活動をお知らせする写真を中心としたチラシなどの発行を検討していく。ＳＮＳ活用の時代であり、これをうまく活用したインスタグラムやホームページの、ブログの内容充実、更新も心掛ける。こうした宣伝活動にも会員の知恵、情報、原稿などの協力をお願いしたい。このような宣伝活動を通してみんなに少しでも関心をいただけるようなものにしていき、会員、デイサービス利用者増にもつながるものにしていきたい。そして、ＮＰＯ法人くろとり山荘発足２０周年をめざして、くろとり山荘がさらなる発展をとげられるように組織強化を行っていきたい。